阿佐海岸鉄道阿佐東線

阿佐海岸鉄道阿佐東線は、徳島県海陽町の阿波海南駅から高知県東洋町の甲浦駅に至る10.0km の路線です。阿佐東線は、大正 11 年に施行された鉄道敷設法の別表に掲げられた建設予定線「高知県後免ヨリ安芸、徳島県日和佐ヲ経テ古庄附近ニ至ル鉄道」の一部です。地元では鉄道実現に向けて期成同盟会を結成するなど活動を行いましたが、昭和 40 年まで着工には至りませんでした。

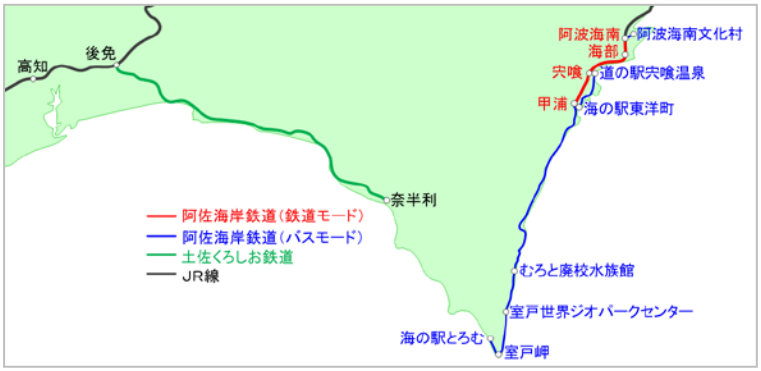
昭和 40 年 4 月に日本鉄道建設公団は四国東部循環線（牟岐～後免間 125km）の第一期として、牟岐～野根間（建設上は阿佐東線 26.6km）と後免～田野間（建設上は阿佐西線 43.5km）を着工しました。しかし、財政事情等により工事は思うようには進みませんでした。昭和 48 年 10 月に牟岐～海部間が完成しましたが、この区間は建設上の阿佐東線とはせずに、在来線の延長開業として牟岐線と呼称することになりました。昭和 49 年 4 月には海部～野根間の工事が再開され、昭和 55 年 2 月までに海部～宍喰間 6.1km のレール敷設が完了し、宍喰～甲浦間 2.1km の路盤工事もほぼ終えていました。しかし、昭和 55 年 12 月の国鉄再建法の施行により、工事が凍結されました。

長年請願を続けてようやく順番が回ってきて阿佐東線の建設工事が進められてきたのに、地元では路線廃止か第三セクター化の選択を迫られることになりました。昭和 63 年 9 月に徳島・高知両県と関係市町村が民間及び関係団体の協力を得て、第三セクター阿佐海岸鉄道株式会社を設立し、第三セクター方式で開業することになりました。平成元年 3 月に工事が再開され、平成 4 年（1992）3 月に阿佐海岸鉄道阿佐東線（海部～甲浦間 8.5km）が開業しました。大正 11 年（1922）に建設予定路線となってから 70 年目のことでした。海部駅に開通記念之碑が建立されています。なお、阿佐西線のうち奈半利～後免間は土佐くろしお鉄道阿佐線（ごめん・なはり線）として平成 14 年 7 月に開業しており、甲浦～奈半利間には路線バスが結んでいます。

阿佐東線では、令和 2 年 11 月にＤＭＶ（デュアル・モード・ビークル）の導入に伴い牟岐線の阿波海南～海部間 1.5km が編入され、路線距離が上記のとおり阿佐海南～甲浦間 10.0km となりました。ＤＭＶは線路と道路の両方を走ることができる乗り物で、令和 3 年 12 月 25 日から海南宍喰線 16.1km と海南室戸線 54km の 2 路線で営業を開始する予定です。阿波海南～甲浦間は鉄道モードで、その他はバスモードで運行されます。鉄道とバスを乗り換えなしに利用できるので、公共交通がより便利に、より効率的になるとともに、世界初の乗り物自体が観光資源となって地域活性化につながることが期待されています。

＜参考文献：四鉄史編集委員会編「四鉄史」1989 年、高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」1998 年、東洋町史編纂委員会編「東洋町史」2020 年、阿佐海岸鉄道ＨＰなど＞

阿佐海岸鉄道開通記念之碑（海部駅）

ＤＭＶ（阿波海南駅）

海陽町の標識